



○「ゲートキーパー」

イラストは、ワニザメをだましたのがばれて毛をむしりとられ、さらに傷口に海水がしみて泣いている兎に、大国主命(オオクニヌシノミコト)が声をかけているところです。大国主命は、苦しむ兎にやさしく寄り添い、手当もしてあげました。



大国主命は、兎にとってゲートキーパーと言えます。ゲートキーパーとは、悩んでいる人、苦しんでいる人に気づき、声をかけてあげられる人のことです。誰しも悩んだり苦しんだりすることはあります。そんな時に、やさしく声をかけてくれ、寄り添ってくれる存在はとても貴重です。家族内や仲間内で、お互いを気かけ声をかけあうことで、不安や悩みは少なからず和らぎます。

一般的にゲートキーパーには「変化に気づく」「じっくりと耳を傾ける」「支援先につなげる(高校生であれば親や先生などにつなげる・・・)」「温かく見守る」という4つの役割が期待されているそうですが、そのうちどれか1つだけの寄り添いであっても、悩んでいる人にとっては大きな支えになるでしょう。

なんでも一人でできる、一人で解決できることが自立ではありません。自分だけではどうしようとなることがあったり、困ったりした時に、他者に救いを求めることができることも自立の一つです。しかし、困ったり、苦しんだりしている自分をさらけ出すには勇気がいます。そんな時に、「なにか困ってないですか？」と優しく声をかけてくれる存在はとてもありがたいものです。誰しも苦しんでいる自分に気づいて欲しいという気持ちがあるものです。それがうまく出せず、間違った方向に行ってしまう人もいます。

一方で、興味本位でその人の苦しみを聞き出したりすることは絶対にあってはなりません。因幡の白兎では、毛をむしり取られた兎が、大国主命と一緒に旅をしていた兄弟からいじめを受けました。海水で体を洗って高い山の頂上に行き、そこで吹く風で乾かすと良いと助言されたのです。苦しむ人に手を差し伸べるのではなく、おとしめて楽しむような人には絶対になりたくないものです。

1学期終業式で沖縄の「命どう宝(ぬちどうたから)」という言葉を紹介しました。失うと二度と手に入らない、どんなものより大事なものの、それが命という意味です。沖縄の平和祈念公園にある石碑にも刻まれています。大国主命の「命」には神からの命令というような意味もあるそうです。命の語源は、人がひざまずいて神意を聞くさまをかたどっているという説もあります。命は神から与えられたなにより尊いものという意味が込められているかもしれません。

【終業式配布文書及びメール内容抜粋】

終業式の日に配布した文書「夏休み中の生活について」においても、「(10)悩み等がある場合は家族・先生・友人等に相談するほか、下記の相談先を利用して下さい」として、24時間子どもSOSダイヤル(島根県):TEL0120-0-78310、島根いのちの電話(島根県):TEL0852-26-7575など紹介しています。[島根県教育委員会ホームページ「悩みの相談体制整備のページ」参照] 緊急時の休日・夜間や閉庁日等の連絡先番号も掲載していますので確認ください。

新型コロナ等への感染や心身などに不安などがあり、2学期からの登校に不安がある場合などは、始業式当日を待たず、楽メ等で早めに連絡してください。